

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874400274		
法人名	特定非営利活動法人ダーナ		
事業所名	認知症高齢者対応型グループホーム アネシス		
所在地	兵庫県豊岡市出石町安良239-1		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成28年9月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者のその人らしさを大切にしたい、尊厳ある暮らしの提供。
日々の密な観察から、心情や体調を察知し、寄り添いや傾聴を行い、安心の居場所を作っていく。
協力医療機関や訪問看護事業所との密な連携から、体調を維持し、穏やかな最期の看取りに繋げる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然豊かな環境に立地し、小規模多機能型居宅介護事業所・サービス付き高齢者向け住宅等を併設した、NPO法人が運営するグループホームである。両ユニット間に多目的ホールが位置し、行き来が自由な広く開放的な生活環境が提供されている。複合施設の利点を活かし、各種行事やイベントの開催による地域交流や利用者の生活の活性化が図られている。また、施設内研修体制・委員会活動等による職員の資質向上を通して、サービスの向上に取り組んでいる。職員会議内で「認知症ケア」について研修を行い、その人らしさを大切にしたいパーソンセンタードケアに取り組んでいる。訪問看護事業所の24時間オンコール体制と協力医療機関との密な連携により、健康管理や早期対応、希望があれば重度化対応、看取りの支援も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『命への共感に満ちたついの棲家 アネシス』という理念を基に、ご利用者の思いを汲み取りケアに繋げることを、会議や日々のケアの中で話し合っている。	法人理念「地域に開かれた温かなコミュニティをつくり穏やかで生きがいのある暮らしをサポートする」、事業所理念「いのちへの共感に満ちたついの棲家 アネシス」を明示し、法人理念の中に地域密着型サービスの意義・目的を明文化している。理念を玄関とスタッフルームに掲示し、職員会議やカンファレンスで理念に立ち戻って振り返る機会を設け共有を図っている。パーソンセンタードケア・ターミナルケアに取り組む中で、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節行事での相互の参加交流や、運営推進会議で区長様を通し情報の発信を継続している。おやつやご利用者の嗜好品の買い出しも、ご利用者と共に地域の商店を利用している。	隣接する2区長の協力を得て、地域との連携が深められるように取り組んでいる。秋祭りでの山車の立ち寄りや休憩所提供、施設の夏祭りへの地域住民や子供会の参加など、地域交流の機会を設けている。定期的な音楽会、ピアノ・歌等のコンサート、大道芸等、ボランティアの来訪もある。パン屋・飲料販売の立ち寄り、訪問理美容、買い物での商店利用など、地域資源も活用している。AEDを設置して「まちの救命ステーション」としてステッカーを貼付して使用啓発を行い、災害時の地域の避難所として登録する等、地域で必要とされる役割や活動を担っている。また、公民館などで「コグニサイズ」を発信し、地域住民の認知症予防・健康促進に貢献したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、研修委員会より『コグニサイズ』の地域への発信が出来たらと計画している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催の運営推進会議にて、事業所の活動の報告をし、地域からも情報を頂いている。地域包括支援センターの職員や区長様、ご利用者のご家族等の委員構成となっている。	家族代表・地域代表(隣接する2区長)・地域包括支援センター職員が参加し、時には利用者も同席し、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1度開催している。利用者の状況や事業所の活動・取り組み等を報告し、参加者との質疑応答を交えながら話し合っている。行事・避難訓練・第三者評価受審等の報告も行っている。区長・地域包括支援センターを通して、地域の動向等についての情報を得たり、地域住民に施設への理解を深めたり、また、施設の夏祭りへの参加を呼びかける等、会議での意見・情報交換がサービスや運営に活かされている。玄関に会議録のファイルを設置し、会議の内容を公開している。	利用者が状況に応じて会議に同席していることも、会議録に記録として残すことが望まれる。知見者も会議の構成メンバーとしての参加を検討することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡会に参加し、情報を得ている。又、疑問点など、市の担当者に相談したり、地域の事業所から情報を得て、助言をもらっている。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加を通して、利用者の状況や事業所の取り組み等を伝えている。市職員も参加する「地域密着型サービス事業所連絡協議会」に出席し、情報共有と連携に取り組んでいる。市が派遣する介護相談員受け入れを通して、市との連携がある。また、疑問や課題等があれば、電話等で相談し、助言を得て協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の時間帯の施設はせず、夜間帯のみの施設をしている。 身体拘束については、職員会議言において意識の統一は図っているが、まだ十分ではなく、今年度の研修計画に入れている。	施設内研修の年間計画に位置づけ、「虐待予防・身体拘束廃止」について学ぶ機会を設けている。身体拘束廃止委員会も設置し、身体拘束だけでなく言葉による拘束についても意識付けを行っている。毎月の職員会議内の「認知症ケア」研修でも、不適切ケアについての理解を深めている。支援困難事例については、カンファレンス・職員会議等で検討し、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施設を行わず、外出願望が強い利用者についても行動を制限せず毎回同行支援を行っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、研修を2月に予定している。その他、職員会議や日々のケアの中で必要に応じ、カンファレンスを開き問題点を検討修正している。	虐待防止についても上記と同様の方法で学ぶ機会を設け、委員会・職員会議・カンファレンス等で意識付けを行い、心理的な虐待・不適切ケアの防止に力を注いでいる。入浴時・更衣時等には身体状況に留意し、虐待が見逃されることのないように注意を払い防止に努めている。また、職員の表情や体調に留意し、話しやすく相談しやすい職場環境づくりに努める等、職員の疲労やストレスの軽減に配慮している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修は、12月に予定している。現在、任意後見制度を利用されているご利用者が存在するが、そろそろ成年後見制度への移行を弁護士により検討されている。	施設内研修の年間計画に位置づけ、「権利擁護・成年後見制度」について学ぶ機会を設けている。現在、制度を活用している利用者があり、職員は業務を通して理解する機会もある。今後、制度利用の必要性が生じた場合は、管理者・ケアマネジャーが中心となって、地域包括支援センター等関係機関と連携して支援できる体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけにとどまらず、疑問点等いつでも対応することを伝え、対応している。	見学時に、事業所内や生活の様子を紹介しながら概略を説明している。契約時には施設長か管理者が、契約書・重要事項説明に沿って、質疑応答しながら丁寧な説明を心がけている。特に、退居については家族の質問も多く、事業所でできる事・できない事等、具体的に説明している。契約書の内容改定時には、説明の文書を郵送し同意を得ている。内容に応じて「全体説明会」を開催することもある。契約の終了時には、退去後の事業所選択についての情報提供や、移行先への情報提供等、円滑な移行に向けた支援を行っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様代表で出席頂き、意見や要望も頂いている。又、面会時、あるいは直接電話等による希望や要望も聞き、出来るだけ意向に沿うよう努めている。	毎月の写真入りのお便りで生活の様子等を伝え、また、家族来訪時には近況を伝えて話しやすい雰囲気づくりに配慮する等、家族の意見や要望が出やすいように取り組んでいる。聞き取った意見や要望は管理者に報告し、内容に応じて、連絡ノートで共有したり、カンファレンスで話し合い、迅速な対応に努めている。現在は個人的な内容であるため、個別に対応している。意見箱も設置している。また、運営推進会議への家族代表者の出席や利用者の同席、介護相談員の受け入れ等、利用者・家族が外部者に意見を表せる機会も設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者は常に情報と意見の交換を行い、必要に応じ、管理者会議および運営会議に議題として挙げている。	月に1回職員会議を行い、会議の前に職員が議題を出し合い、また、全体での会議の後ユニット毎の会議が行われ、効率的に話し合えるように工夫している。会議の出席率がよく、やむを得ず欠席した場合は議事録の回覧により共有している。会議で検討された職員の意見や提案などは、業務改善や支援方法に反映している。また、運営会議・理事会等で管理者から職員の意見・提案等を代表者に伝える機会もある職員の異動は、利用者との馴染みの関係に配慮し最小限に留めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の管理者会議、月1回の主任以上参加の運営会議にて、検討している。給与規定に関しては、改善されたところである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々、施設内を把握し職員の動きを把握されている。研修に関しても、各事業所からの稟議書やその他必要と思われる研修への参加を促している。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の同業者へ研修の講師を依頼し、その事業所からも職員が参加して交流するなど、機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の本人およびご家族様からの聞き取りはもちろん、入居後も寄り添い、信頼関係の構築に努めながら、思いを引き出すよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族から悩みや要望などの情報を聞き取り、信頼を頂けるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人の必要とされる、福祉用具や訪問看護など導入の支援は、行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者各々のできる事を見極め、役割として掃除・洗濯物干しやたたみ、食器洗いなどをお手伝い頂いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時等にご利用者の様子をお伝えし、ご家族からも情報を頂いたりしながら共に考えて頂いている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ敷地内の他事業所を利用されているご近所さんが、デイサービスご利用時に会いに行き、話をしている。又、会話の中から、なじみの場所などの情報収集を心掛けている。	入居時の面談や、入居後の利用者や家族との会話の中で、馴染みの人や場所についての情報収集に努めている。入居前からの友人・知人の訪問時にはゆっくり過ごしてもらえようように配慮している。施設内の合同イベントでの交流も、関係継続の機会となっている。ドライブの際に、馴染みの地域に出かける機会もある。	馴染みの人・場所を含む生活歴や生活習慣・価値観等、各利用者のバックグラウンドとなる情報を一元的に記録し、追記による情報の蓄積や、後々の検証に役立つような記録の工夫と活用を期待する。

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	日々の暮らしの中で、相性も見極めながらレクレー ションへの声かけや役割をお願いし、関わりの機会を 作っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフ ォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の実績無し		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当やそれぞれのスタッフが、関わりの中から、 意向や希望等の聞き取りを意識し、思いの把握に努 めその人らしい暮らしの支援に繋げるよう、カンファ レンス等を開き検討している。	職員会議等でパーソンセンタードケアの意識付けを 行い、利用者との日々の会話の中で思いや意向の把握 に努めている。把握した思いや意向は、個人記録やカン ファレンス等で共有し、支援やサービス計画に反映して いる。把握が困難な利用者については、家族からの情 報を参考にすると共に、表情・反応から察知したり、質 問の仕方を工夫し「まばたき」や「うなずき」から把握 に努める事例もある。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やご家族の面会時、又はご利用者との会話の中 から情報を得て、把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	日々、個々の密な観察に留意し、その情報を共有する ことで現状把握に努めている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心にご利用者の情報を収集し、必要に応じご家族や医療関係者等と話をし、プラン作成に繋げている。	フェイスシートと利用者・家族との面談から、意向確認と課題抽出を行いサービス計画を作成している。サービスの実施内容は個人記録に記録し、毎月短期目標に沿って実施状況のモニタリングを行っている。職員会議の議題として「記録の書き方」を採り上げ、記録の内容や書き方に差異が生じないように取り組んでいる。定期的には6カ月に1回、モニタリングを基にサービス担当者会議を開催し、サービス計画の見直しを行っている。利用者の状況や家族の意向が変化している場合は、随時見直しを行い、現状に即した計画へ変更している。介護計画の作成・見直しに当たっては、かかりつけ医・看護師等関係者の意見・助言も採り入れている。	サービス計画の見直し時には再アセスメントを行うことが望まれる。サービス計画と実施状況の整合性が明確になる記録の工夫を期待する。介護計画を、関係者等の意見を採り入れて作成したことが分かるよう、サービス担当者の会議録等に、家族、かかりつけ医、看護師等の意見、指示等を記載しておくことが望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を残し、ケアの継続・見直しに生かすよう努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じた柔軟な支援を心掛けて、できる事を話し合っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	パン屋さんやヤクルト販売の立ち寄りがあり、購入されている。又、地域の秋祭りには2地域からの山車の立ち寄りがあり、交流させて頂いている。訪問リハビリを9月から利用予定。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望により入居時のかかりつけ医との関係を継続しており、その主治医が定期的に往診し体調管理に当たられている。</p>	<p>契約時に意向を確認し、利用者・家族の希望に沿った受診支援を行っている。家族同行で通院による受診を基本的としているが、緊急時や家族の状況に応じて、事業者が臨機応変に対応している。利用者の状態に応じてかかりつけ医の往診も受けられる。また、訪問看護事業所との連携により、週に1回の体調管理訪問、必要時の個別の訪問、24時間オンコール等の体制もあり、嘱託医との連携も密にとれている。訪問時の記録は「訪問看護記録」に、受診結果は個人記録に記録し、職員間の共有については「連絡ノート」に転記している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護事業所との契約により、週1回体調管理を受けている。その際を中心に情報を伝達・相談し、指示を受けている。24時間のオンコール体制もあり。</p>	/	/
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、サマリあるいは直接情報の伝達を行い、スムーズな治療と早期退院に向け、努めている。</p>	<p>入院時には職員が同行し、個人ファイルを基に、また、「介護サマリー」を作成し、情報提供を行っている。入院中は面会に行き、家族や病院関係者等と情報交換を行い、早期退院に向けて連携に努めている。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、退院後の支援に活用している。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意向の確認と看取りに関する指針を十分に説明し、納得・了解のうえ署名捺印頂き、チームでの支援を行っている。	契約時に、重度化・終末期に向けた指針を、グループホームでできる事・できない事と共に説明し、「意向確認書」で家族の意向を確認している。重度化を迎えた段階で、かかりつけ医から状態説明を受け、再度「意向確認書」で家族の意向を確認し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。事業所での看取りを希望される場合は、ターミナルケアプランを作成して方針を共有しながら、かかりつけ医や看護師等と共に支援に取り組んでいる。医療的な支援や観察はチェック表を活用しながら、状態の変化や家族との連携については個人記録に経過を記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施していないが、緊急時の連絡網を作成し、指示系統を明確にし指示を受けられる体制を整えている。	/	/
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時避難訓練を定期的実施し、全職員が周知できる体制を整えている。災害時の地域の避難場所にもなっているが、まだ合同での避難訓練は出来ていない。	年に2回、施設合同で、利用者参加、消防署立ち会いで、昼間帯想定火災時避難訓練の総合訓練を実施し、訓練終了後に消防署からの助言を得ている。災害時の地域の避難所として登録し、運営推進会議では区長を通じて地域への協力を依頼している。食品や備品等を共同備蓄しているが、内容について再検討の必要性を感じている。	夜間設定での火災時避難訓練や、地震・水害等自然災害時訓練等の実施により、災害時に昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を職員全員が身につける取り組みが望まれる。地域の避難所となることも考慮し、備蓄品の内容と管理体制の整備を期待する。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の会議で、認知症ケアについて学び認知症ケアの専門職としての自覚を促している。	毎月の職員会議の中で「認知症ケア」についての研修を継続して行い、また、職員会議の議題にもたびたび採り入れ、尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学び、意識付けを行っている。施設内研修の年間計画にも、「人権擁護」「接遇」「認知症ケア」を採り入れて学ぶ機会を設けている。日々のケアの中で気になる言葉かけや対応があれば、管理者が注意を促したり、職員会議の議題として取り上げ意識付けを行っている。個人記録類はスタッフルームの鍵のかかるロッカーに保管し、写真の掲載について、契約時に細分化して同意を得、個人情報の適切な管理に努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声かけの中で、思いを表出できるような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタード・ケアに留意し、業務中心にならないよう意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の生活暦等を把握して、尊厳の保たれた、その人らしい身だしなみを心掛けている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、他事業所への委託でケータリング食となった為、定期的に手作り食、手作りおやつの日を作り、ご利用者との協働の機会を作っている。	ケータリング食を委託し、炊飯は事業所で行っている。日常的には主に後片付けの中で、また、手作り食・手作りおやつの日を設け、利用者が好みや力量に応じて参加できる機会作りを行っている。利用者の状況に応じて、ソフト食・ミキサー食も提供している。検査や給食委員会を通して、利用者の嗜好や希望を採り入れた、季節や行事に応じた食事が提供できるように、施設全体で取り組んでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、外部事業所利用の為管理されている。水分は、大体時間を決めてお茶の時間を設け、必要な水分量を摂っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、それぞれのご利用者の排泄パターンに応じた排泄ケアを行っている。	排泄一覧表を活用して排泄状況やパターンを把握し、一人ひとりのタイミングに応じた声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を大切にしたい支援を行っている。状況の変化や課題があれば随時カンファレンスを行い、排泄用品や介助方法を話し合い、現状に即した支援に取り組んでいる。腸内環境のための飲食料品の工夫や訪問看護師との連携により、排便コントロールにも注力している。声かけ時や職員間の伝達時の周囲への配慮や排泄用品の取り扱いなど、排泄介助時の羞恥心やプライバシーに留意している	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにオリゴ糖を取り入れ、腸内フローラの活発化を念頭に入れている。個々に応じ、歩行運動や下半身の冷え予防にも留意している。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間も入浴の希望があり、安全を確認しながらシャワー浴をして頂いている	基本的には、週2回以上、午前・午後の入浴としているが、希望に応じて毎日の入浴も夜間の入浴も可能であり、利用者の意向に添った支援に取り組んでいる。身体状況に応じて、施設内で機械浴も可能である。終始一人の職員が介助し、その人のペースでゆっくり入浴できるように配慮している。また、異性介助を嫌がる利用者には同性介助で、入浴を嫌がる利用者には無理強いせず声かけ・タイミングを工夫する等、個別の配慮を行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご利用者の生活習慣を把握し、ゆっくり休める環境に配慮している。日中の活動等睡眠リズムの確立にも留意した支援をしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者の服薬一覧を配置し、服薬されている薬の効能は理解できている。飲み込みまでを確認し、日々のご様子を記録している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者の役割としての、洗濯や掃除、歌や ジグソーパズル、輪投げ等レクリエーション活動。又、買い物での外出、散歩等気分転換も図っている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花摘みや地域の地藏様へのお参り、散歩等、対応している。 嗜好品の買い物を兼ねて、買い物同行をして頂いている。	事業所周辺の散歩や買い物、ドライブ等に出かけている。小学校・中学校の運動会を見に行く機会も設けている。今後、季節の外出や個別の外出支援等外出の機会を増やしていく取り組みを検討している。	日常的な外出、季節感のある外出、思い出の場所等への外出等、利用者の希望に沿った外出支援に、今後ますます、取り組まれることを期待する。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心でもあり、お金を持たれている。又、普段金銭管理はされていないご利用者も、嗜好品等購入できる環境は出来ている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時に電話をし、直接会話をさせて頂いている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにおいて洗濯物干しや洗濯ものたたみをして頂いている。各ユニットの食堂は、昔ながらのすだれで夏の日差しを避けている。扇風機も設置している。	両ユニットが多目的ホールを挟み、行き来が自由な広い生活空間が提供されている。前庭に出て、プランターの花の水やりや洗濯物干しができる、開放的な環境である。多目的ホールにはピアノや音響設備が置かれ、イベントや行事にも活用されている。ユニット内のスペースの他にも、廊下・玄関ホールのソファや多目的ホール内のテーブル席等、利用者が思い思いに過ごせるスペースがある。多目的ホールに、季節・行事に応じた飾りつけを工夫し、生活感・季節感が感じられるように配慮している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、気の合う人との談笑の場や独りになれる場を作っている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力の下、ご本人のなじみの物を置き、安心の場となるよう心掛けている。	洗面台とクローゼットが設置され、それ以外には使い慣れた馴染みの家具や道具の持ち込みを勧めている。たんす・仏壇・家族の写真等、思い入れのあるものを置き、その人らしい居室づくりが行われている。畳敷きとフローリングの居室があり、生活習慣を大切に布団を使用している人もある。居室掃除・シーツ交換・布団干し等を業務日誌と一覧表で管理し、快適に過ごせる環境整備にも配慮している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレをわかりやすい位置に表示し、又、ご利用者の動線や慣習を考慮して家具類のレイアウトをしている。		